

本連載では、「誰もが主役 多様な協会へ」というスローガンのもと、多様な協会活動への参画のあり方を提案し、多くの会員に協会活動へ参画していただくべく、さまざまなかたちで協会活動に参画している方々にインタビューしています。インタビューは、「誰もが主役 多様な協会へ」推進チームの高橋香代子理事・吉田尚樹氏です。

今回お話をうかがうのは、今期から理事としてご活躍中の池田勝彦理事です。



高橋

「誰もが主役 多様な協会へ」推進チームの担当理事をしています高橋です。池田理事とは同じ期に理事に就任したので、今回はお話をうかがえることを楽しみにしていました。



吉田

「誰もが主役 多様な協会へ」推進チームの部員をしています、千葉県千葉リハビリテーションセンターの吉田です。2023年度より協会活動へ参画しています。協会活動への経験が短いからこそ、素朴な疑問等をお聞きできればと思います。では、池田理事、自己紹介をお願いします！

大阪生まれの大阪育ちで、陽気な性格と明るく元気な声が特徴です。性格はポジティブ思考で、好きな言葉は「猪突猛進」です。臨床経験15年目で、これまでに大阪市、尼崎市、現在は吹田市の市民病院で勤務しています。

キャリアアップのために転職をし、その都度、「経験に勝るものはない」という信念で行動してきました。現在は身体障害領域を専門とし、早期作業療法や高次脳機能障害に関連する生活行為の支援が得意かもしれません。



池田



高橋

池田理事は今期から理事に就任されましたが、協会活動へ参画し始めたきっかけは何だったんですか？

最初のきっかけは、2019年に大阪府作業療法士会の代議員に応募したことです。大阪府作業療法士会が代議員を公募していて、協会活動に対して意見を述べる立場で貢献できるかもと考えました。

代議員として活動するなかで、当初はCOVID-19の感染拡大の影響で若年層(35歳以下)の会員離れが深刻化していくのを一会員として肌で感じ、早期に対策していく必要を感じていました。そして、代議員として2期目から、代議員としてできることへの限界も感じるようになりました。



池田



池田理事の臨床の様子



息抜きに海辺でサイクリング



吉田

そのような危機感から、理事に立候補しようと思われたのですか？

そうですね。その頃から協会側の対応をただ待つのではなく、自ら執行部としてかかわることにより迅速に対策を進められるのではないかと感じ、立候補の時期を探っていました。また、一会員として協会と会員との間に大きな隔たりがあるのを感じていました。それは協会活動の透明性が低いことに起因します。我々が納めている会費の用途がみえにくい点にも疑問をもっていました。そこで、若年層を代表した立場でこれをみえる化し、必要な情報を会員にしっかり届けることが重要だと感じ、立候補を決意しました。



池田



吉田

近しい世代として、とても共感します！  
実際に理事になってみて、池田理事がやりたいことはできていますか？

協会活動に参画してよかったと思うことは、「人とのつながり」「目標達成の達成感」「創造性の発揮」ですね。  
現在は教育部担当理事として、登録作業療法士の新しい制度の構築に取り組んでいます。全国で活躍する世代の異なる作業療法士とともに、作業療法教育や組織率対策について議論しながら仕組みを整えていく過程は大変ですが、その仕事の規模の大きさから得られる達成感ややりがいがあります。



池田



吉田

教育部では生涯教育制度や指定規則の改定等、さまざまなプロジェクトがあるようですが、どのようにして皆さんで取り組まれているのですか？

教育部には、年齢層も専門分野も異なる理事が5名かかわっています。そのため、適材適所で役割を分担し、それぞれの専門性を活かしています。私自身は、理事になる直前に認定作業療法士を取得していたため、生涯教育制度の改定において当事者の目線、現場の意見を反映させることができると考えています。一方、学校養成施設教員の理事は指定規則改定に関与する等、自分の得意分野で力を発揮しています。このようにチーム全体として取り組むことが大切だと思います。



池田



高橋

私は理事になってみて、本務とプライベートと協会活動の両立にあたふたしているのですが、池田理事はいかがですか？

課題の一つは時間のつくり方です。時間は限られており、私の場合は家庭があるため、仕事、家事、育児、余暇、睡眠で21時間ほどを充てています。残りの3時間は自由な時間があるので、これを協会活動に充てることで参画できています。また、会議の多く設定される18～21時には時間通りに会議が終われるように、準備や工夫が必要だと思います。これらの活動が無償であることを忘れてはいけません。



池田



高橋

職場やご家族にご理解いただくことも必要になるかと思いますが、どのようにされていますか？

私の職場では、理学療法士で協会役員をしている人もいるので、職場の理解が得られやすいのは助かっています。また、時間休を取りやすい環境が整っており、臨機応変に対応しやすいです。また、家庭内ではお互いのできる時に分担して家事を行っています。休みの日には温泉、麻雀、キャンプ、自転車等の趣味を楽しみながら、バランスを取っています。



池田



吉田

次の役員選挙からクォータ制（まずはジェンダーに着目した候補者クォータ制から）が導入されますが、池田理事はどうお考えですか？

役員選出において、重要な制度だと認識しています。会員構成を反映した理事会、組織運営がなされているかと言えば、かなり疑問があるからです。特に女性会員にとって、協会活動への参画を諦めると選択した人がいるかもしれません。

まずは、各世代の考え方や価値観を反映した協会であるためにも、クォータ制に期待しています。



池田



高橋

そうですね。クォータ制が実現するためには、誰もが参画しやすいように協会活動そのものを変えていく必要があるということも、池田理事のお話から感じました。最後に会員の皆さんにメッセージを！

人生はあっという間に終わります。何もしていなくても時間は過ぎますが、30歳を越えてからそのことに気づきました。限りある時間のなかで、私は協会活動に参画し、日本の作業療法の未来をつくる貴重な経験を肌で感じています。ぜひ皆様もご自身の経験を協会活動に活かしてみませんか？



池田

今回は池田勝彦理事から、協会活動に参画しようと思った経緯や、活動におけるやりがい等についてお話をいただきました。本会にとっては、「誰もが主役」です。どんな状況でも、私たちはその大切な言葉や行動を待っています。あなたの、その声や行動が、未来の私たちを後押ししてくれます。そして、あなたの日々の経験こそが、協会活動には必要です。ぜひ、あなただからできる協会活動への参画方法を考えてみませんか？

次回も「誰もが主役 多様な協会へ」推進チームの記事を楽しみにお待ちしております。第4回は第153号（2024年12月15日発行予定）に掲載予定です。